

2022年12月20日

株式会社高島屋

## 第33回（2022年度）タカシマヤ文化基金 受賞者・助成先決定

2022年11月15日に行われた公益信託タカシマヤ文化基金運営委員会において、第33回(2022年度)タカシマヤ美術賞の受賞者および助成団体が以下のとおり決定いたしました。

### ■ タカシマヤ美術賞（助成金 各200万円）：3名

- 中島 吏英（なかじま・りえ）さん〈彫刻〉
- 竹内 紘三（たけうち・こうぞう）さん〈陶芸〉
- 岩崎 貴宏（いわさき・たかひろ）さん〈現代美術〉

### ■ 団体助成（助成金 3団体で180万円）：3団体

- 神奈川県立近代美術館（所在地：神奈川県三浦郡）
- 平塚市美術館（所在地：神奈川県平塚市）
- 水戸芸術館（所在地：茨城県水戸市）

#### 公益信託タカシマヤ文化基金について

高島屋は、1909年に広く一般の方々に美術品を紹介する「現代名家百幅画会」の開催を契機に、1911年に美術部を創設するなど、人々の暮らしの中に美と文化を提供し続けてきました。そのような歴史と伝統のもと、1990年に公益信託タカシマヤ文化基金を設立、新鋭作家や美術文化の保存・発掘・振興に寄与する団体などへの助成を行っています。当基金は専門家からなる運営委員会によって運営され、高島屋はオブザーバーとしての役割を担っています。

新鋭作家に対する賞（タカシマヤ美術賞）は、1作品への賞ではなく、その作家のこれまでの活動と将来性から選考するものとなっています。毎年、「タカシマヤ美術賞」として作家には一人200万円、団体に対しては各回総額200万円を上限とした助成を行っております。

第1回～第5回は「新鋭作家奨励賞」、第6回以降は「タカシマヤ美術賞」として昨年度32回を迎え、これまでの受賞作家は88作家、助成団体はのべ69団体となります。

※贈呈式は2023年1月23日（月）に開催いたしますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からパーティーは中止とさせていただきます。

■タカシマヤ美術賞（助成金 各 200 万円）

○中島 吏英（なかじま・りえ）さん〈彫刻〉

◆音と彫刻の融合を試みる作品で、日常の何気ない素材をモニター等につなげ繊細なサウンドをつくり出し芸術へと昇華させる。

1976年神奈川県生まれ。2000年東京藝術大学美術学部芸術学科卒業、2005年チェルシー芸術大学 BA ファインアート彫刻科卒業、2006年文化庁新進若手芸術家海外留学制度英国研修  
2009年ポーラ美術文化財団英国研修を経て、現在ロンドンを拠点に国内外の展覧会やフェスティバルに数多く参加。

【主な展覧会・受賞歴・その他活動】

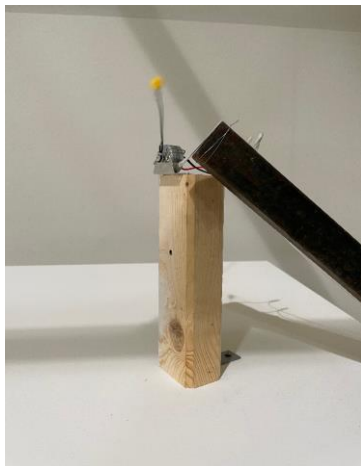
2017年「Dead Plants & Living Objects by 中島吏英 & Pierre Berthet」

Meakusma Festival/オイペン

2019年「坂田明×中島吏英ライブパフォーマンス」原美術館、東京

2021年 The David and Yuko Juda Art Foundation 特別助成

2022年「Flat」Void<sup>+</sup>/東京



「In Sounds, In Places」  
La Chaufferie Galerie de  
la HEAR 2022年  
©Rie Nakajima



「Cyclic」 Ikon Gallery  
2018年  
©Stewart Whipps



photo by Greg Pope

## ○竹内 紘三 (たけうち・こうぞう) さん <陶芸>

◆ 鋳込み成形で磁土の筒状パーツを作り、それらを集合・焼成することで一体化した構造物をつくり上げ、その後ハンマーで部分的に叩き割り破壊し作品を完成させる。

1977年兵庫県生まれ。2001年大阪芸術大学芸術学部工芸学科陶芸コース卒業、2003年岐阜県多治見市陶磁器意匠研究所卒業後、兵庫県にて制作・活動。

### 【主な展覧会・受賞歴・その他活動】

2005年 第27回長三賞現代陶芸展 奨励賞

2016年 神戸ビエンナーレ現代陶芸コンペティション 奨励賞

2021年 Ishoken gallery(多治見・岐阜)にて個展

2021年～22年 滋賀県立陶芸の森アーティスト インレジデンスプログラム



Modern Remains Floating

2021年

Photoworks tanaka  
(Yoshinori Tanaka)



現磧-BK&WT-

2019年

photo:来田猛

提供 : ARTCOURT Gallery



## ○岩崎 貴宏 (いわさき・たかひろ) さん <現代美術>

◆ 歯ブラシやタオル等身近な素材を用いて、ほぐした糸で小さなクレーンや鉄塔を立ち上げ触れると壊れそうな繊細な作品で知られる一方、厳島神社等歴史的建造物をテーマにした作品にも取り組む。

1975年広島県生まれ。2003年広島市立大学芸術学研究科博士後期課程修了、2005年エジンバラ・カレッジ・オブ・アート大学院修了。

## 【主な展覧会・受賞歴・その他活動】

2015年「岩崎貴宏展埃（10<sup>-10</sup>）と刹那（10<sup>-18</sup>）」小山市車屋美術館、栃木

2015年「岩崎貴宏展山も積もればチリとなる」黒部市美術館、富山

2017年「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 岩崎貴宏 逆さにすれば、森」  
日本館、ヴェネチア、イタリア

2018年 第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞



リフレクション・モデル（テウスの船）

2017年/2021年 photo:来田猛

©Takahiro Iwasaki、

Courtesy of ANOMALY



アウト・オブ・デイスオーガ-（ノーイント）

2012年

©Takahiro Iwasaki、

Courtesy of ANOMALY



## ■団体助成（助成金 3団体で180万円）

### ○神奈川県立近代美術館

助成内容

「仲田定之助旧蔵資料の整理・公開・活用促進」

（所在地：神奈川県三浦郡）



Photo:Kijuro Yahagi

神奈川県立近代美術館は日本で最初の公立美術館として1951年11月に開館し、つねに美術館はどうあるべきかを考えながら国内での先導的な役割を担い活動しています。

当館では、会社経営のかたわら日本人としてはじめてバウハウスを訪問し、最先端の芸術動向の紹介や評論、制作活動を展開した仲田定之助の旧蔵図書および美術資料の寄贈を受けています。今後はその資料の整理と保存、および環境整備を進めていきます。具体的には当館のアーカイブ事業の一環として、①図書資料のOPAC登録②資料を広く公開するための目録化の整理③開館20周年の展覧会での展示公開と活用促進、等の活動に助成金を活用していきます。

（神奈川県立近代美術館）

## ○平塚市美術館

助成内容

「藤田嗣治初期作品の調査、修復と公開」

(所在地：神奈川県平塚市)



平塚市美術館は1991年3月に開館し、「湘南の美術・光」をメインテーマに国内外の優れた美術作品を紹介する企画展を開催しています。

当館では、2018年に寄託を受けた藤田嗣治の初期作品《おことさん》を調査、修復することにより、渡仏後に独自の画風を確立するまでの材質技法を解き明かし今後の藤田研究の発展に寄与できるものと考えています。

東京美術学校在学中に制作された藤田作品で現在確認されているものは少なく、また湘南地域での活動を示す貴重な作品であると考えられます。

今後、具体的には、①作品の光学的調査および展示に向けた修復・撮影②展覧会小冊子の刊行③展覧会の開催等の活動に助成金を活用していきます。(平塚市美術館)

## ○水戸芸術館

助成内容

「椿昇+室井尚《飛蝗(プロジェクト・インセクト・ワールド)》  
修復・公開プロジェクト」

(所在地：茨城県水戸市)



Photo: 田澤純

写真提供：水戸芸術館

水戸芸術館は水戸市制100周年を記念し1990年に開館した複合施設で、音楽、演劇、美術の3部門がそれぞれの自主企画を行う多彩で魅力あふれる事業を展開しています。

当館では2001年に横浜トリエンナーレで制作された椿昇+室井尚による全長50メートルの巨大作品《飛蝗(プロジェクト・インセクト・ワールド)》を2002年に所管作品として収集、以来国内外で展示貸し出しを行ってききましたが、経年劣化により修復が不可欠となっています。2023年には当館コレクション作品の展示を含めた複合的プロジェクト「アートセンターをひらく(仮称)」を計画しているため、具体的には、①作品の点検②修復③公開等の活動に助成金を活用していきます。(水戸市芸術館)

以上